

第37回 ひらかたハーフマラソン

開催日:平成26年1月13日(月)

場所:淀川河川公園・枚方地区

種目	名前	学年	記録	着順	備考
一般女子 ハーフ	床呂 沙紀	1年	1時間20分10秒	1位	
一般女子 10km	尾崎 可南子	1年	38分33秒	1位	
一般女子 5km	山田 郁香	1年	19分55秒	1位	

【山本コメント】

地元の枚方市で、毎年成人の日で開催される本大会。今年は、全国から5,888人のエントリーがあった。冷たい北風が吹く、やや厳しいレースコンディションの中で開催された。

ハーフでは、床呂が冷静なレース運びで、後半までペースを落とさずに走り切った。今回が初ハーフマラソン体験であったため、慎重な力配分の中で走るよう助言したが、レース全般の走り方やゴール後の余力からみると、長い距離への高い適性を強く感じた。ハーフマラソンのみならず、フルマラソンにも高い適性があると予測する。長い距離のレースにも積極的にチャレンジしてほしい。

10kmでは、尾崎がゴールまで元気に走りきった。記録は、11月の淀川マラソンより22秒速かった。ただ、本人の潜在能力からすると、まだまだふさわしい記録ではない。今回も、まだ全開で走れる状態ではない。いい練習を継続し、力をつけて、自信をつけたうえで、次の10kmのレースは全開で挑戦してほしい。

5kmでは、山田がゴールまで元気に走りきった。しかし、記録としては本人の潜在能力からすると物足りなく、先月の記録会での記録からもかなり遅れてしまった。次回以降のレースで本来の走りができるよう、うまく調整してほしい。

レースとして走りきることの経験値としての意義は大きい。もっとも、どのような意識をもって走るかによって、その財産的価値は大きく変わってくる。当然、駅伝での走りにもつながる。一本一本のレースについて、出場する意義を明確にして取り組み、経験値を積み重ねてほしい。

地元の大会ということで、多くの人に声をかけていただいた。これからも、地元の多くの人に応援していただけるよう、気にかけていただけるよう、頑張っていてほしい。地元の人に元気をお届けし、地元の人から元気をいただく、そんな関係を求めていきたい。